

地震が発生した時に、被害を最小限におさえるには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をすることが極めて重要です。そのためには、みなさんが地震について関心を持ち、いざというときに落ちついて行動できるよう、日頃から地震の際の正しい心構えを身につけておくことが大切です。地震が発生したときの避難行動を確認しておきましょう。

●地震が発生したら…

地震発生時にとるべき行動ポイントをまとめました。地震発生からの時間は目安です。災害時の状況に応じ柔軟に対応しましょう。

地震発生～
3分程度

●自分の身を守る

落下物や倒れてくるものなどから、身を守りましょう。



～5分
程度

●火の始末・避難経路の確保

揺れを感じても、あわてず揺れが収まってから消火しましょう。
出口の安全を確認し避難経路を確保しましょう。



～10分
程度

●家族の安否確認、避難

家族の無事を確認します。あらかじめ連絡方法や集合場所など、家族内で決めておきましょう。
避難するときにはブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めましょう。



10分～

●近所の安否確認・消火・救出活動、情報収集

近所で助けをを求める人はいないか、火災が起きていないか確認しましょう。火事や助けを求める人がいたら、隣近所で消火・救出活動を行いましょう。デマに惑わされないよう、ラジオやテレビ等で正確な情報を入手するようにしましょう。

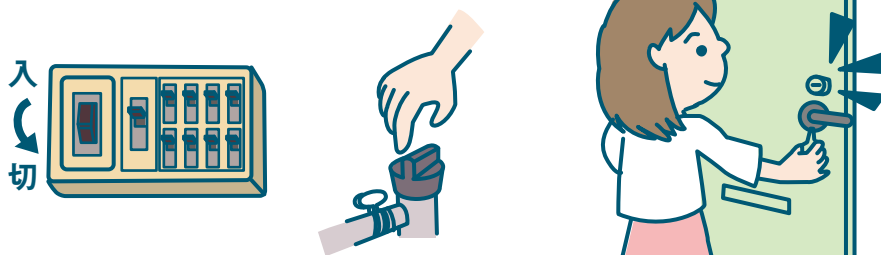


避難するときの注意点

避難時に家を離れる際の注意点、避難するときのポイントをまとめました。

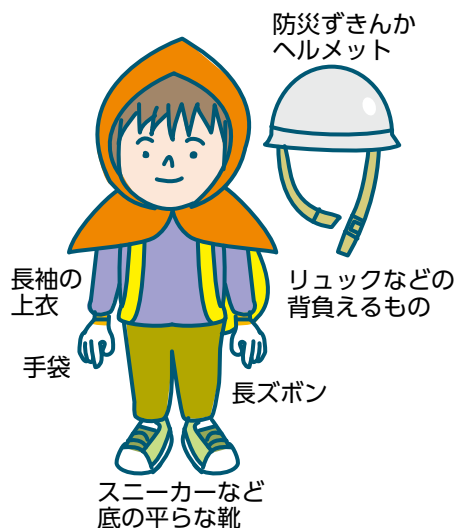
◆家を離れる際の注意点

- 家を出る時には忘れずにガス・水道の元栓を閉め、電気のブレーカーはOFFにする。(二次災害防止)
- 空き巣等の被害を防ぐ為、家の戸締まりをする。(盗難防止)
- 災害用伝言ダイヤルなどを活用して安否確認を残す。



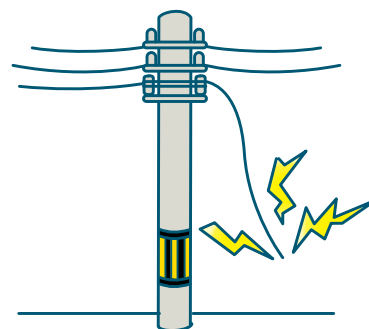
◆避難するときのポイント

- エレベーターを使って避難しない。
- 避難は徒歩で行う。車を使用しての避難は避ける。
- 靴は底の厚い、履き慣れた靴を履く。
- けが防止のため夏場でも長袖・長ズボンを着用する。



◆避難途中も注意しましょう

- ガラスや看板、瓦などの落下物に注意する。ブロック塀や門柱から離れる。
- 自動販売機の転倒に注意する。
- 道路へは飛び出さないようにする。
- 断線した電線が垂れていたら、近づいたり、触ったりしない。



アロートク

風水害

地震

その他の災害

家庭対策

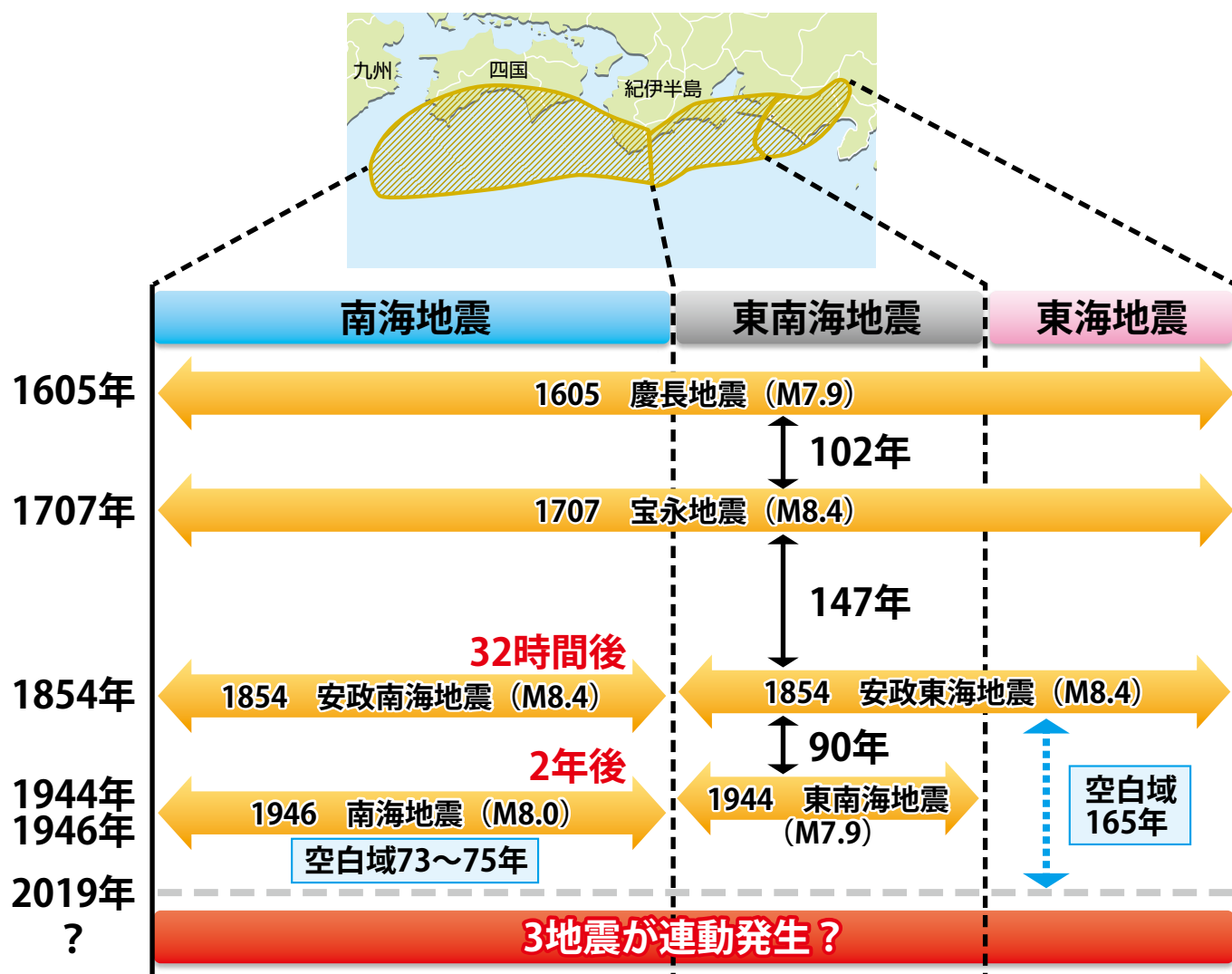
地域対策

南海トラフ地震に関連する情報

南海トラフで発生するとされる巨大地震(東海地震、東南海地震、南海地震)は、約100年~150年程度の周期で繰り返し発生しています。

特に、東海地震の震源域とされる駿河湾沖から御前崎沖にかけては、1854年に発生した「安政東海地震」から150年以上大きな地震が発生していません。地震の空白域となっているため、プレートの境界付近は蓄積されたひずみが限界まで達している可能性が高く、地震がいつ発生してもおかしくない状態になっています。

概ね100年~150年の間隔で大規模地震が発生



◆想定される地震の揺れ、規模

南海トラフ巨大地震がひとたび発生すると、静岡県から宮崎県にかけての一部では震度7となる可能性があるほか、それに隣接する周辺の広い地域では震度6強から6弱の強い揺れになると想定されています。また、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に10mを超える大津波の襲来が想定されています。

プロ

風水害

地震

その他の災害

家庭対策

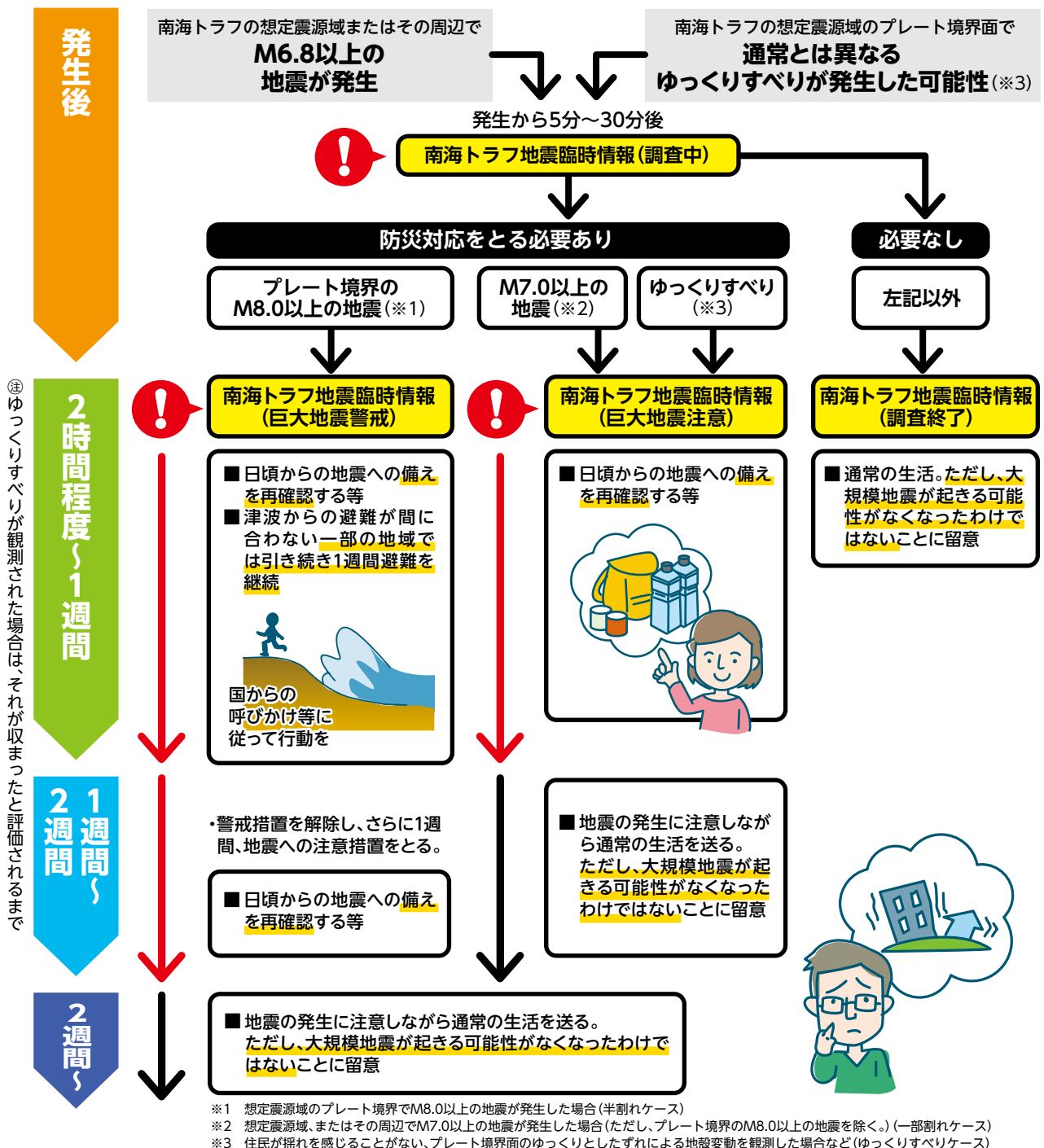
地域対策



時間差で発生する巨大地震に備えましょう ～南海トラフ地震臨時情報～

- ・南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。
- ・政府や地方公共団体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

地震発生後の防災対応の流れ



プロローグ

風水害

地震

その他の災害

家庭対策

地域対策

地震の揺れ(震度)と規模(マグニチュード)

◆地震の揺れ(震度)と想定される被害

震度

4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることもある。



震度

5弱

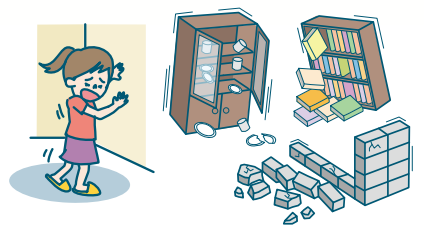
- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なもののは倒れることがある。



震度

5強

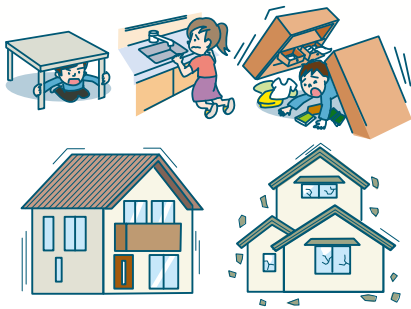
- 物につかまらなないと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度

6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりするものもある。



震度

6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩落が発生することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりするものもある。



震度

7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

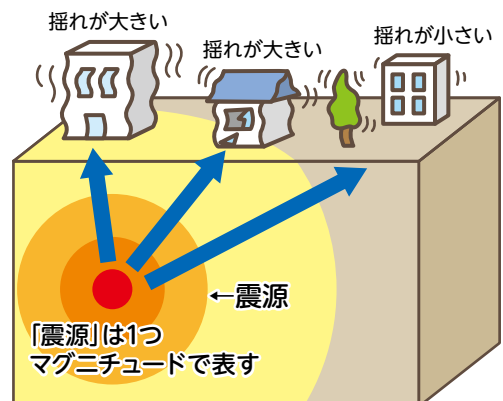


◆地震の規模(マグニチュード)とは

「マグニチュード」は、震度とは違い、地震そのものの大きさ(規模)を表すものさしとなります。

マグニチュードの小さい地震でも震源からの距離が近いと地面は大きく揺れ、「震度」は大きくなります。逆に、マグニチュードの大きい地震でも震源からの距離が遠いと地面はあまり揺れず、「震度」は小さくなります。

震度は場所によって異なるため、地域によってそれぞれ数値が異なる



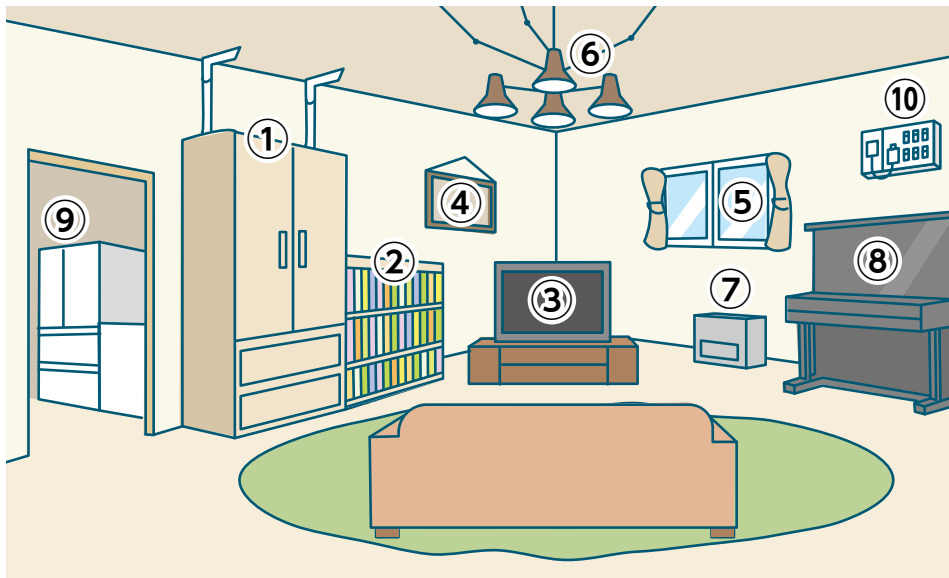
地震への備え

◆家の中の安全対策

家の中には地震のときに危険なものがたくさんあります。室内の家具が倒れ、いざ避難しようとしたときに出口をふさぐこともあります。

家具を固定したり、配置場所を変えたりするなどの安全対策が必要です。

まずはできることから実践し、見直しながら安全性を高めていきましょう。



- ① **ダンス・棚・書庫**…十分な強度のある柱や壁にL字金具などで固定しましょう。支柱を使用する場合は壁側に設置し、床との間に免震ゴムを手前側（壁の反対側）に入れると倒れにくくなります。特に二段重ねのものは、つなぎ目を金具で固定しましょう。
- ② **本棚**…すきまがあると危険なため、ブックエンドなどを活用し、本がすべり落ちないように、バンドをかけるなど対策しましょう。
- ③ **テレビ**…家具の上などには置かず、できるだけ低い位置に固定して置きましょう。
- ④ **額縁**…チェーンや金具でしっかり固定し、ガラス面には飛散防止フィルムを貼るとより安全です。
- ⑤ **窓**…ガラス面には飛散防止フィルムを貼りましょう。
- ⑥ **照明器具**…つり下げ式の照明器具は、チェーンと金具で数か所固定しましょう。
- ⑦ **暖房機器**…ストーブは耐震自動消火装置付きのものを使用しましょう。燃えやすいものは周囲に置かないようにしましょう。
- ⑧ **ピアノ**…本体にナイロンテープなどを巻き付け、太めの柱に取り付けた金具に連結して、しっかりと固定しましょう。脚には専用のすべり止め器具を付けましょう。
- ⑨ **冷蔵庫**…転倒防止用の専用ベルトや針金を通して、壁などに固定しましょう。
- ⑩ **感震ブレーカー**…電気火災対策として感震ブレーカーの設置をしましょう。

(注) 生命維持に直結するような医療用器具等を設置(使用)している場合、平時から停電に対処できるようバッテリー等を備えてください。また、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

◆家のまわりの安全対策

家のまわりも日頃から安全に対策をしておきましょう。

■屋根
不安定なアンテナや屋根瓦は補強しておきましょう！

■窓ガラス
飛散防止フィルムを貼りましょう！

■ベランダ
植木鉢などの整理整頓をしておきましょう！

■プロパンガス
ボンベをしっかりと鎖で固定しておきましょう！

■ブロック塀・門柱
しっかり点検をし、補強をしておきましょう！

フローリング

風水書

地震

その他の災害

家庭対策

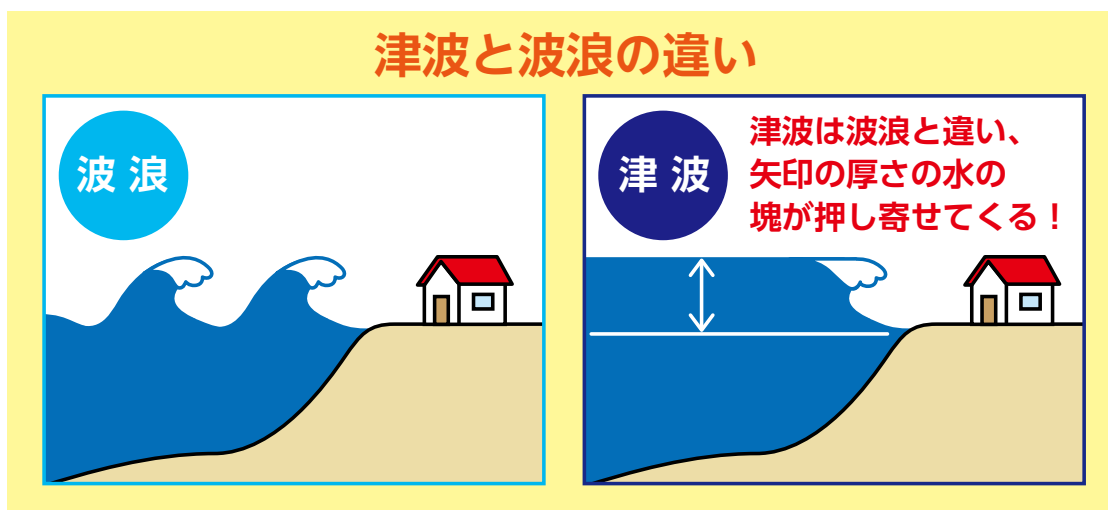
地域対策

津波が襲ってきたときの避難行動

地震による津波は非常におそろしい自然災害です。東日本大震災では、岩手・宮城・福島3県で亡くなった人の9割超が、津波が原因でした。津波について知っておきましょう。

◆津波とは…

東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループが行った津波痕跡調査結果によると、東日本大震災での津波の最大遡上高(津波が陸に駆け上がった際の最大到達高度)は岩手県宮古市重茂姉吉地区で41メートルだったと報告されています。

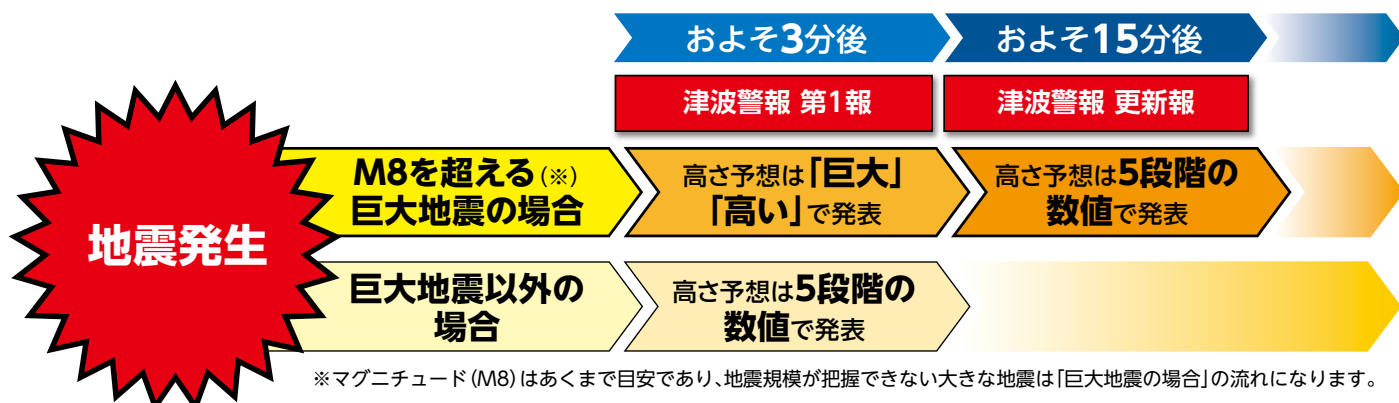


◆津波の破壊力

津波はおそろしい力で人や家をのみ込み、陸地に押し寄せます。海へ引き返す波はとても強力で、人や家を海に引き戻します。何度もくり返し押し寄せるのも特徴です。また、危険なのは、沿岸部だけに限りません。東日本大震災では、津波が宮城県の北上川を河口から49km以上もさかのぼっていたことが確認されています。こうした河川でも堤防の越水などの可能性があり、十分に注意が必要です。

◆津波に関する警報

○津波警報の情報発表の流れ



◆津波から命を守るためには…

津波から身を守るには「逃げる」ことが一番の方法です。自分の命を守るため早急に避難しましょう。

○こんなときには

- 強い地震や長時間の揺れを感じた場合
- 大津波警報（特別警報）・津波警報が発表された場合（揺れを感じなくても）
- 津波注意報が発表された場合（揺れを感じなくても）

○まずこのような行動を

- 沿岸部（津波危険地区）や川沿いにいる人は、直ちに高台や避難ビルなどの安全な場所へ避難する
- ここなら安心と思わず、さらに高い場所を目指して避難する
- 海の中にいる人は、直ちに海から上がって、海岸から離れる
- 想定にとらわれず、率先して避難する



津波避難場所 (JIS)



津波避難ビル (JIS)

●液状化現象による影響

液状化現象とは、地震が発生した際に地盤が液体状になる現象のことです。液状化は、主に同じ成分や同じ大きさの砂からなる土が、地下水で満たされている場合に発生しやすいといわれています。

地震発生で繰り返される振動で、地中の地下水の圧力が高くなり、砂の粒子の結びつきがバラバラとなって地下水に浮いたような状態になります。

液状化が起こることにより、家や電柱などが傾いたり、橋や堤防が崩壊したり、沈下するといった被害が過去にも起きています。

堤防が沈下することで、津波の影響を受ける可能性もあります。



大治町は、液状化の影響を受ける可能性が広範囲にあるため、注意が必要です。



大治町は、津波災害警戒区域からは外れていますが、福田川の沈堤（破堤）が危ぶまれています。